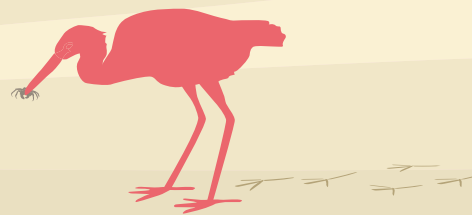


# なぎさ NEWS



## 今年のトビハゼ繁殖 – 泥干潟水槽で夜間に子どもを回収 –



サクラエビを食べる全長4～5cmの子ども

今年(2015年)8月6日の午後6時40分頃、消灯後の「泥干潟」水槽で水面に1～2cmほどの気泡が1分間ほど出てくるのを確認しました。「さては?」と直感的に思い、すぐに水中を懐中電灯で照らしました。10秒ほどで、半透明の小さなトビハゼの子ども(全長3mmほど)を数尾確認でき、1分ほどたつとその数は数十尾を超えました。子どもが光に集まってきたのです。トビハゼの繁殖用巣穴は深さ20～30cmほどで、末端はJ字型に反り上がり「産卵室」となっています。オスが産卵室へ口に含んだ空気を何度も運ぶと、水没していた産卵室の水位が下がり、卵は空気につれた状態で発生が進みます。ふ化直前になると、今度はオスが産卵室にたまった空気を口に含み何度も外へ出します。すると、産卵室の水位が上昇し卵が水にさらされふ化が誘発されます。このとき生じた気泡が最初に紹介した気泡だったのです。水槽内の子どもを集めるのに、今までは朝に手網を使って手繰り寄せていましたが、今回は夜に光に集まる習性を活かし、子どもを傷つけずに効率よく回収できました。今後の繁殖成績が良くなるかもしれません。現在、100尾ほどの子どもをバックヤードで育成中です。(飼育展示係 田辺 信吾)

## 巨大なカジキに大興奮! 網代の定置網漁を体験しました

10月17～18日に実施した、フィールドプログラム東京の海を知る第4回「海の幸を獲る・味わう」の様子をご紹介します。静岡県網代漁業株式会社に全面協力いただき、定置網漁を体験して「海」を丸ごと味わっていただきました。(教育普及係 多田 諭)



**1** 午前2時、眠い目をこすりながら、参加者と職員合計17名で大型の定置網漁船に乗船。漁師さんの朝は早い。



**2** 30分で定置網に到着。設置された大きな網をせばめていきます。さて、今日の網には何が入っているかな?



**3** マアジ、カマス類とともに、体重200kgを超えるシロカジキも1尾! 東京近くの海にこんな魚がいるなんて、みんなビックリ!!



**4** 獲れた魚を使って、船の上でこんな実験もやってみました。コバンザメのなかまを手につけると、ほらこのとおり。



**5** 午前6時。港に帰ってからは市場で獲れた魚の仕分けの手伝い。えっと、この魚は何だっけ?



**6** クロマグロの幼魚(ヨコフ)も混じていました。今年生まれ、約半年でこのくらい大きさに成長します。



**7** これ何だ? 漁師さんが見せてくれたこの不思議な物体はカジキの体の中にある「うきぶくろ」です。空気でパンパン。



**8** 午前8時。獲れた魚の中からみんなを選んで、漁師さんに刺身にしてもらいました。ああ、お腹がすいた。いただきます!